

作物名：なし

病虫害名：銀葉病（病原：*Chondrostereum purpureum*）



写真1 左：健全葉、右：発病葉



写真2 症状が進んだ葉（葉の一部が褐変）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 本病原菌の産生する毒素によって被害樹の葉が銀色に鈍く光る。
- 症状が進むと、葉の表面に無数の亀裂が生じ、褐色となる。
- 発病樹は次第に症状が拡大し、最後には衰弱枯死する。
- 枝幹部の枯死部分に、子実体（ムラサキウロコタケ）を秋季～初冬に形成する。
- ニセナシサビダニやチャノキイロアザミウマの被害葉とやや似るが、ニセナシサビダニやチャノキイロアザミウマの被害葉は銀色を呈さないため、判別できる。

2 伝染源・伝染方法

- 伝染源は、発病樹に発生した子実体（ムラサキウロコタケ）。
- 子実体に形成された担子胞子が秋季～翌年春季に飛散し、せん定痕や枝幹の傷口に感染する。
- 本病原菌はなしのほかに、りんご、うめ、すもも、ハンノキ、ヤナギ、ポプラ、ブナ、クヌギなども侵す。

3 防除方法

- 有力な治療方法はない。
- 薬剤防除は困難。
- 子実体を除去して、ほ場外に持ち出して処分する。
- 衰弱の激しい被害樹は早めに伐採して、周囲への感染を防ぐ。伐採後の枝幹等はほ場内に放置せず、ほ場外に持ち出して処分する。
- せん定痕や傷口にペースト剤を塗布し、感染を防ぐ。

4 出典

(1) 参考文献

- ひと目でわかる果樹の病虫害第二巻（改訂第二版）（日本植物防疫協会）
- インターネット版 防除ハンドブック 日本ナシの病虫害（全国農村教育協会）

(2) 写真

- 宮城県美里農業改良普及センター撮影

（令和7年5月作成）